

Title	平野敏政 略歴・ 著作目録
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2009
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学： 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.67 (2009.) ,p.138- 141
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2008年度定年退職者略歴・ 著作目録一覧
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000067-0138

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

(清水透・金光一彦・吉廣恵・大宮美智枝) 2002年1月26日。

「現代医療と他者の命の物象化」『三田学会雑誌』94巻4号, 2002年。

「患者・家族・いのち」『子どもといのちの教育研究会ワークショップ (DES)』報告, 2002年5月18日。

「南北問題と現代医療—患者家族から見えるもの」教育科学研究会『平和, 人権と教育』部会報告, 2002年8月11日。

「どうにかなるから」『母のひろば』童心社, 2002年9月。

「こころの片手間」近藤卓編『いのちの教育』実業之日本社, 2003年。

「造血幹細胞移植と生命倫理」「人体利用等にかんする生命倫理基本法」研究プロジェクト主催『第2回臓器移植法ワークショップイン金沢—臓器移植法の問題点を探り出す』報告, 2003年6月1日。

「PBSCTと医の倫理」厚生労働省がん研究助成金事業「非血縁者間の造血幹細胞移植による悪性腫瘍の治癒率の向上に関する研究」班(原田実根班長)班会議《2. パネルディスカッション》『骨髓移植と末梢血幹細胞移植健常ドナーからの採取の安全性, および治療効果をいかに評価するか』報告, 2003年6月13日。

「新規治療法の導入と医の倫理—PBSCTの非血縁者適用の可否をめぐる」厚生労働省臓器移植対策室講演, 2004年9月29日。

「現代医療における患者・家族・ドナーをめぐる問題点」社会思想史学会シンポジウム『「人間」概念の変容と生命倫理』(島蘭進・清水透・阿部知子・高草木光一), 2006年10月22日。

「臓器提供と本人意思—「意志」はどのように形成されるか: 骨髓移植財団の活動から」『衆議院臓器移植法改正を考える会』講演, 2007年2月15日。

「<いのち>がみえる」『ぶどうのいえだより』No. 50, 2008夏号, 2008年8月。

この他, 全国の小中高, 大学, 市民団体を対象に, 1993年~2004年の間, 医療といのちにかかわる66回の講演活動を実施。1999年~2001年には骨髓移植をめぐる友情物語「舞台友情」の上演活動に携わる。

平野敏政 略歴・著作目録

(平成21年1月31日現在)

[生年月日]

昭和18年8月28日

[学歴]

1967年3月	慶應義塾大学	文学部卒業
1970年3月	慶應義塾大学	大学院社会学研究科修士課程修了
1973年3月	慶應義塾大学	大学院社会学研究科博士課程単位取得退学

[職歴]

〈塾内教職歴〉

- 1972年 4月 慶應義塾大学文学部講師（非常勤）
 1977年 4月 慶應義塾大学文学部助手
 1979年 4月 慶應義塾大学文学部助教授
 1994年 4月 慶應義塾大学文学部教授
 1995年 4月 慶應義塾大学大学院社会学研究科委員

〈塾内役職〉

- 1986年 4月 大学通信教育部学習指導副主任 1993年10月
 1994年10月 大学学生部副部長（1994年9月まで）
 1995年10月 学生総合センター学生部副部長
 1995年10月 大学文学部学習指導主任（1997年9月まで）
 1997年10月 大学学生総合センター長（1999年9月まで）
 1997年10月 大学学生総合センター学生部門長（1999年9月まで）
 1999年10月 大学学生総合センター長兼学生部長（2000年3月まで）
 2000年11月 ハラスメント防止委員会副委員長（2002年10月まで）
 2000年11月 ハラスメント防止委員会地区相談員（2002年10月まで）

〈塾外役職〉

- 1983年 4月 東京都港区社会教育委員（1985年3月まで）
 1998年 3月 日本育英会奨学事業協議会委員（2002年3月まで）
 1998年 4月 社団法人私立大学連盟学生部会委員（2000年3月まで）
 1997年10月 社団法人私立大学連盟学生部会長（2000年3月まで）
 1997年 7月 文部省高等教育局 大学における学生生活充実のための調査研究会委員（1998年3月まで）
 2004年 1月 独立行政法人 高齢・障害者雇用促進機構 学校教育分野における障害者雇用推進事業委員会座長（2005年7月まで）
 2004年 2月 日本育英会 選考方式検討委員会委員（2004年10月まで）
 2007年 7月 独立行政法人 日本学生支援機構 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム審査委員会委員（現在に至る）

[業績一覧]

【著書】

- 『人間存在と社会生活』（共著）文教書院，昭和54年4月。
 『社会学シンポジウム』（共著）文教書院，昭和54年6月。
 『生活の学としての社会学』（共著）総合労働研究所，昭和57年5月。
 『生活の学としての社会学』（共著）総合労働研究所，昭和57年5月。
 『社会学の窓』（共著）エイデル研究所，昭和59年5月。
 『社会生活の場面と人間』（共著）慶應通信，昭和60年3月。

- 『日常生活とコミュニケーション』（共著）慶應通信，昭和61年7月。
『社会学の展開』（共著）北樹出版，平成5年4月。
『日常的世界と人間』（共著）小林出版，平成3年5月。
『現代社会と家族的適応』慶應通信，平成6年1月。
『家族/看護/医療の社会学』（共著）SANWA Co., Ltd., 平成7年3月。
『新しい大学のあり方を求めて』（共著）開成出版，平成9年7月。
『境学事始め』（共著）慶應義塾大学出版会，平成11年7月。
『ユニバーサル化時代の私立大学』（共著）開成出版，平成11年3月。
『家族・村落・都市生活の近現代』（共著）慶應義塾大学出版会，平成21年3月（予定）。

【学術論文】

- 「社会変動論における組織的変動分析の意味と課題—R. ファースの所論を中心として—」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』第12号，昭和47年2月，45-54頁。
「社会人類学における動態理論」『哲学』第60集，昭和47年12月，慶應義塾大学三田哲学会，83-108頁。
「社会構成の基礎としての親族組織」『社会学評論』第25巻3号，昭和49年11月，日本社会学会，63-82頁。
「親族関係の分析視点」『哲学』第63集，昭和50年2月，慶應義塾大学三田哲学会，55-70頁。
「現代人と神話的言明」『海外事情』第24巻第11号，昭和51年11月，拓殖大学海外事情研究所，62-70頁。
「家族・親族組織の類型と分類」『拓殖大学論集』第104・105合併号，昭和51年3月，331-357頁。
Rene koenig “Die Familie der Gegenwart” 『拓殖大学論集』第109号，昭和52年3月，297-313頁。
「古代籍帳上に見る戸と家族」『哲学』第68集，昭和53年10月，慶應義塾大学三田哲学会，51-80頁。
「有賀喜左衛門一家と先祖と氏神—」『国際宗教ニュース』第17巻第1-2号，昭和54年7月，10-20頁。
“Aruga kizaemonn: The Household, the Ancestor, and the Tutelary Deities” *Japanese Journal of Religious Studies*, 昭和55年9月。
「有賀喜左衛門の家理論」『家族史研究』3号，昭和56年5月，156-186頁。
「有賀社会学と法制史学」『社会学史研究』第4号，昭和57年3月，70-79頁。
「高齢化社会と家族的適応」『哲学』第91集，平成2年12月，慶應義塾大学三田哲学会，415-437頁。
「生活組織と全体的相互給付関係」『三田社会学』，三田社会学会，平成12年7月。
「戦後日本の家族変動—「いえ」，核家族，エロス共同体」『三色旗』平成14年7月。
「核家族化論再考—三世代世帯選択率について」『法学研究』平成16年1月。

【その他】

- 「老人扶養意識調査」『横浜市企画財政局都市科学研究室報告書』昭和59年3月，1-97頁。
「老人扶養と家族」『横浜市企画財政局都市科学研究室報告書』昭和60年3月，1-4頁。
「現代家族における居住空間構成と性別役割分業に関する研究」『第一住宅建設協会調査報告書』昭和62年7月，25-126頁。
『第9回学生生活実態調査報告書』（共著）平成7年7月，日本私立大学連盟 学生会第一分科会。

『第10回学生生活実態調査報告書』（共著）平成11年7月，日本私立大学連盟 学生会第一分科会。

南 隆男 略歴・主要業績

(2009年1月31日現在)

【略歴】

【生年月日】

1944年（昭和19年）1月4日

【学歴】

1967年 3月 慶應義塾大学文学部社会・心理・教育学科心理学専攻卒業
 1969年 3月 慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程修了
 1971年 7月 イリノイ大学大学院労働・産業関係研究所修士課程修了
 1975年 11月 イリノイ大学大学院労働・産業関係研究所博士課程修了
 1975年 11月 労資関係学 博士学位取得 (Ph.D. イリノイ大学)

【職歴】

1969年 9月 イリノイ大学大学院労働・産業関係研究所 研究助手（～1972年1月）
 1973年 9月 イリノイ大学大学院労働・産業関係研究所 研究員（～1975年11月）
 1975年 12月 慶應義塾大学文学部 助手（～1978年3月）
 1977年 4月 慶應義塾大学 産業研究所（行動科学部門）研究員（～現在）
 1978年 4月 慶應義塾大学文学部 助教授（～1989年3月）
 1978年 8月 イリノイ大学大学院労働・産業関係研究所 客員准教授（～1978年10月）
 1989年 4月 慶應義塾大学文学部 教授（～現在）
 1989年 9月 イリノイ大学大学院労働・産業関係研究所 客員教授 [フルブライト上級研究員]
 （～1990年3月）
 1996年 2月 カリフォルニア大学バークレイ校心理学部 客員教授（～1996年3月）

この間、中京大学文学部，東北大学大学院文学研究科・教育学研究科，名古屋大学大学院教育学研究科，日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科，立教大学社会学部で非常勤講師を勤める。

【塾内役職】

1978年 10月 文学部学習指導副主任（～1980年9月）
 1980年 10月 文学部学習指導副主任（～1981年9月）
 1981年 10月 大学院社会学研究科委員長補佐（～1983年9月）
 1983年 10月 大学院社会学研究科委員長補佐（～1985年9月）